集書日誌58

高橋新太郎　学習院女子短期大学教授

松本克平宛献呈本『斬られの仙太』と合唱劇「満員列車」

札幌の弘南堂書店の目録から、三好十郎が昭和二十二年七月号の『日本評論』に発表した合唱劇「満員列車」の原稿三十二枚と献呈本『斬られの仙太』（昭和9年4月、ナウカ社）その他を入手した。『斬られの仙太』はすでに〈『文学評論』二周年記念特価版〉共々、美本を架蔵していたが、三好十郎の〈段六をやつて下すつて、ありがたう克平さん〉の献詞付きとあっては、克平さんとの縁もあって見逃すわけにはゆかず、幸い手に入れることができた。

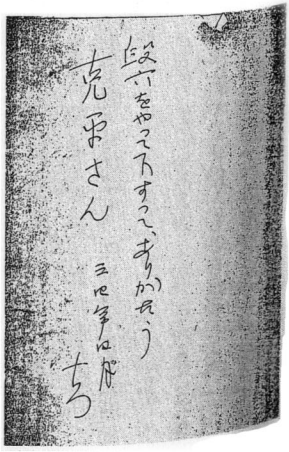
ありがたい限りだ。克平翁を偲ぶ本刊行の準備が進んでいるが、写真版ででも入れたいところだが間に合うまい。

男1　いてえ！　いてえ！　てっ！
男2　誰だっ、そんなに押すのわっ！
女1　苦しいっ！
男3　だめだ、あほうめっ！　もう、はいらないんだっ！
女2　いたい！　それあ、私の手ですよっ！
女3　あらっ！　なにをなさるのっ！
男4　くそっ！　前がつかえているのが、わからんかっ！　ばかやろう！
女4　あゝあっ！　あゝあっ！　死んでしまう！　死んでしまいますよっ！　つ、つ、つ、つ！

暗い舞台でこの台詞が繰り返されて、この合唱劇は始まるのだが、まさに敗戦の混乱期の息吹きを如実に伝える世相劇でもある。

三好十郎の原稿類をできるだけ収集しようと心掛けているのだが、乏しい資金繰りの中でなかなか思うにまかせない。

それにしても、三好十郎そして克平翁にかかわる文献資料が札幌の書肆を通して入手できようとは思わなかった。



流通市場のおもしろさ、ありがたさで、図書館その他の機関に収蔵されてしまわなかった幸運をひとり喜んだ。

『三好十郎書誌』の仕事を進めているが、段々、欲もいや増さって、最後の詰めのところで手間取ってしまっている。

出版書肆をあまり待たせるわけにもゆかず書誌作りの性として、できるだけ詳細にと、より完全にを目指さざるを得ず、まことにつらいところだ。